



特集の狙い

千 葉商科大学は2018年に創立90周年を迎える。その記念すべき年を見据え、2017年度より原科幸彦学長のリーダーシップの下、「学長プロジェクト」が始動している。学長プロジェクトは、千葉商科大学の目指す「大局の見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸課題を解決する、高い倫理観を備えた指導者（治道家）」の育成を実現し、環境・社会に貢献する大学となるべく取り組んでいる全学的な活動である。[プロジェクト1] 会計学の新展開、[プロジェクト2] CSR 研究と普及啓発、[プロジェクト3] 安全・安心な都市・地域づくり (Resilience)、[プロジェクト4] 環境・

エネルギー (Sustainability) の4つのプロジェクトから構成される。

今回の『CUC View & Vision』は、創立90周年特集号として、学長プロジェクト活動の紹介を行う。原科学長に加え、4つのプロジェクトを推進している本学の教員、さらに各プロジェクトをご支援いただいている有識者の方々に寄稿をお願いし、学長プロジェクトの目指すところ、今後の方向性などについて考察をお願いした。

1本目は、本学 原科幸彦学長による「アカウンダブルな社会・経済への千葉商科大学の貢献－4つの学長プロジェクト－」である。学長プロジェクトの成り立ち、4つ

のプロジェクトの活動状況などが、原科学長の強い思いとともに語られている。月1回の公開講座や、地域との連携を推進する国府台コンソーシアム、自然エネルギー100%大学の実現等、学長プロジェクトを通じて本学が活性化している様子がよく理解できる。

2本目は、「[プロジェクト1] 会計学の新展開」のメンバーである本学大学院会計ファイナンス研究科中村元彦教授による「ITを利用した未来の会計と監査の方向性」である。会計分野は千葉商科大学のコアコンピタンスであり、昨今の人工知能、Internet of Things (IoT) の進展に伴い、今後の展開・方向性をしっかりと考えていかななくてはならない領域である。中村教授は、ITを利用しつつ、高い倫理観を併せ持ち、セキュリティに最新の注意を払える人材が求められると述べている。

3本目は、「[プロジェクト1] 会計学の新展開」の学識者として、東洋大学相互情報学部 島田裕次教授にご寄稿いただいた。島田教授も、特に人材教育にフォーカスし、人工知能が会計に及ぼす影響について述べている。人工知能、IoT等の情報技術は今後の会計業務・教育に大きな影響を及ぼす。時代の変化に対応しつつ、求められる人材を育成していくことが必要である。

4本目は筆者がプロジェクトリーダーを務める「[プロジェクト2] CSR研究と普及啓発」の活動紹介である。[プロジェクト2]はSDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標、詳細は4本目の論説を参照) 時代を踏まえ、SR (Social Responsibility、社会的責任) を再考し、環境社会配慮、投資、大学評価、消費活動、教育といった観点から研究を進めていく活動である。筆者に加えて、本学人間社会学部の伊藤宏一教授、齋藤紀子専任講師、サービス創造学部の今井重男教授にご寄稿いただいている。

5本目は、「[プロジェクト2] CSR研究と普及啓発」の学識者として、地球環境戦略研究機関 (IGES) シニアフェロー 中原秀樹氏によるコメントである。複数の目標をもつプロジェクトを成功に導くためには、全体を見ながら具体的な社会課題を設定する必要があること、日本と海外の状況の違いを把握・理解することが重要であること、報告と発信を積極的に展開すべきであることなど、大変示唆に富んだ内容となっている。[プロジェクト2]のみならず、すべての学長プロジェクトメンバーが心に留めておくべき内容となっている。

6本目は「[プロジェクト3] 安全・安心な都市・地域づくり (Resilience)」のプロジェクトリーダーである本学人間社会学部 朝比奈剛教授によるプロジェクト紹介である。[プロジェクト3]で取り組んでいる広範囲な活動を、「日常における地域の交流拠点」としての取り組みと、「災害時の避難所」としての取り組みに分けて整理・紹介している。市川市国府台地区にある

教育機関や医療機関が連携した「国府台コンソーシアム」の重要性についても述べられており、「安全・安心な都市・地域づくり」に本プロジェクトがキーとなっていることが示されている。

7本目は、「[プロジェクト3] 安全・安心な都市・地域づくり (Resilience)」の学識者として、政策研究大学院大学の福井秀夫教授に、地域との交流拠点としての千葉商科大学という観点でご寄稿いただいた。千葉商科大学では「The University DINING」という学食を通じて地域交流が活発化しており、大学としてのブランド戦略のみならず防災面でも大きな価値を生んでいる。地域との交流拠点としての大学の存在の重要性が述べられている。

8本目は「[プロジェクト4]」のプロジェクトリーダー、本学政策情報学部 鮎川ゆりか教授によるプロジェクト活動紹介である。本学は昨年、「自然エネルギー100% 大学」宣言を行い、内外で多くの注目を集めた。自然エネルギー100%大学の取り組みがどのようなきっかけで始まったのか、学生を巻き込みながら全学に広げていったプロセスが実データを交えながら大変わかりやすく説明されている。

9本目は「[プロジェクト4]」の学識者として、CUC エネルギー (株) 取締役の手嶋進氏による寄稿である。千葉商科大学の「自然エネルギー100% 大学」の課題や実現のための施策が具体的に示されているとともに、本取り組みが教育の機会としても利用されていることが高く評価されている。このプロジェクトが日本の大学として画期的な活動であることを述べている。

以上、本特集に寄稿いただいた9本の論説は、全学を挙げて取り組んでいる4つの学長プロジェクトのさまざまなチャレンジを紹介するとともに、その課題や意義に対して、各々の経験/知見を提示し考察している。大学を取り巻く環境が大きく変化している今、大学としてどのように社会に責任を果たしていくべきか、しっかりと考えていく必要がある。千葉商科大学の学長プロジェクトによって、これからの大学のあるべき姿が示されていくと確信している。

千葉商科大学商経学部教授 経済研究所長

橋本 隆子
HASHIMOTO Takako